

証券コード：9179



"K" LINE KINKAI

株主通信 vol.7 2011年9月



ほっかいどう丸

川崎近海汽船株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

東日本大震災により被災されました皆様に、謹んでお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申しあげます。

第46期第2四半期の営業概況ならびに事業内容をご理解いただくために、株主通信をお届けいたします。

当第2四半期連結累計期間（2011年4月1日から2011年9月30日まで）におけるわが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災以降、国内物流網の回復による経済活動の持ち直しが期待されたものの、個人消費は依然として低迷し、企業の設備投資も伸び悩むなど、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。震災の影響に加え米国や欧州における金融不安や景気の減退懸念に伴う急激な円高の進行や燃料油価格の高止まりが続くなど厳しい経営環境となりました。

このような状況下、当社の第2四半期連結累計期間の売上高は211億41百万円となり前年同期に比べて6.8%の増収となりました。営業利益は7億11百万円となり前年同期に比べて63.8%の減益、経常利益は6億1百万円となり67.3%の減益、特別利益を3億52百万円、特別損失を2億34百万円計上した結果、四半期純利益は4億47百万円となり63.2%の減益となりました。

中間（第2四半期末）配当につきましては、1株当たり3.5円とさせていただきますことになりました。なお、期末配当につきましても1株当たり3.5円を予定しており、年間配当は1株当たり7円となる予定です。なにとぞご理解賜りますようお願い申しあげます。

海運業界を取り巻く環境は、依然先行き不透明な状態におかれています。各部門にわたって一層の業績向上を目指す所存です。

株主の皆様におかれましても、引き続き変わらないご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長

石井 繁 礼



CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ トピックス	7
■ 財務ハイライト	2	■ 連結財務諸表	8
■ 部門別営業概況	3	■ 株式の状況	9
■ 船舶紹介	4	■ 会社概要	10
■ 拠点紹介 八戸支店	5	■ 株主メモ	裏表紙

当第2四半期の業績結果

■ 連結業績

売上高	211億41百万円 (前年同期比 + 6.8%)
営業利益	7億11百万円 (前年同期比 △63.8%)
経常利益	6億 1百万円 (前年同期比 △67.3%)
純利益	4億47百万円 (前年同期比 △63.2%)

■ 連結財政状態

総資産	380億72百万円
純資産	207億86百万円

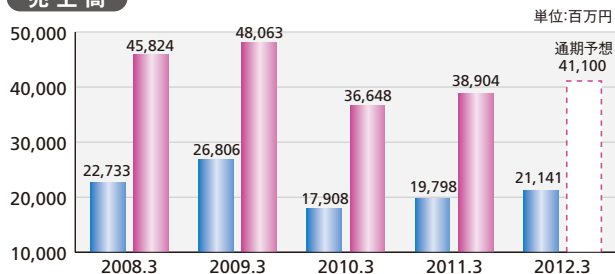
■ 連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー	4億74百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29億38百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1億 3百万円

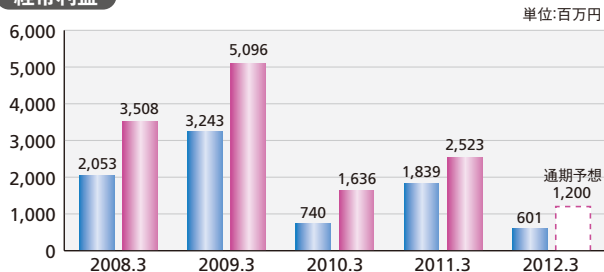
■ 中間（第2四半期末）配当金

1株当たり3.5円

売上高



経常利益



通期の業績予想

■ 連結業績

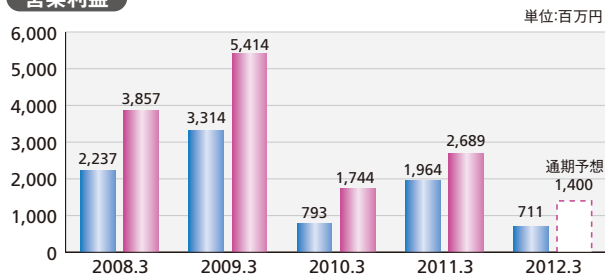
売上高	411.0億円
営業利益	14.0億円
経常利益	12.0億円
当期純利益	7.5億円

(下期の想定円ドル為替レート 1ドル=79円)

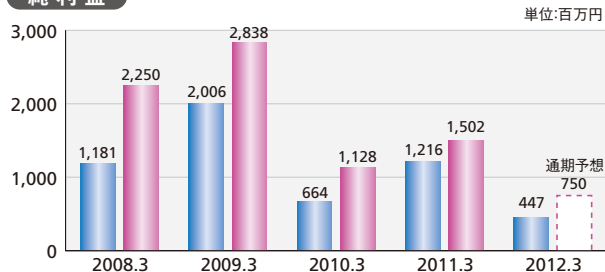
■ 年間配当金

1株当たり7円 (中間 (第2四半期末) 3.5円・期末3.5円) を予定

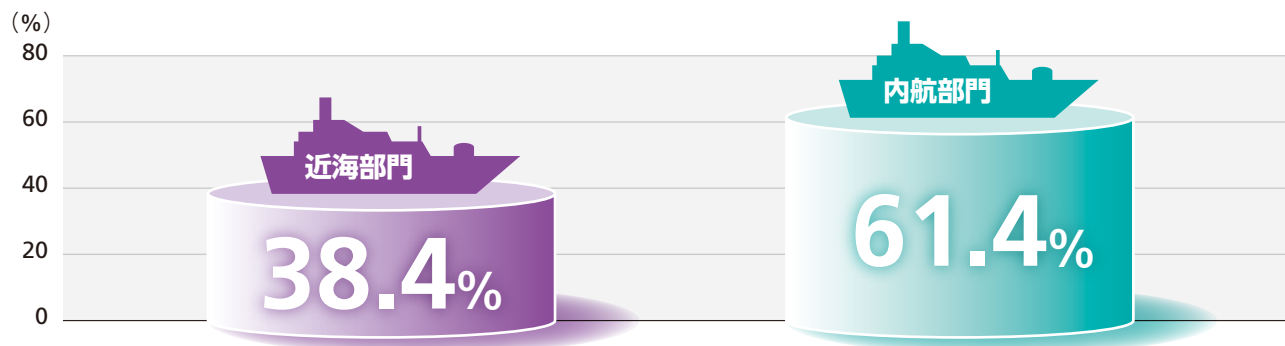
営業利益



純利益



部門別営業概況



近海部門

売上高

81億10百万円

不定期船輸送

不定期船輸送では、新造船の供給圧力が引き続き強く、また欧米の経済不安から市況は低迷しましたが、日本向け石炭・ドロマイト等バラ積貨物輸送では年度契約を結んでいたことにより安定した輸送量を維持しました。

定期船輸送

定期船輸送では、往航の香港・海峡地およびタイ向けで好調な鋼材需要に支えられ、輸送量は前年を上回りました。一方、復航の合板輸送においては、国内需要が低迷し、輸送量は前年同期に比べ減少しました。

当部門の売上高は81億10百万円となり前年同期に比べて14.5%の増収となりました。また、営業損益は前年同期6億69百万円の営業利益に対し、当第2四半期は26百万円の営業損失となりました。

内航部門

売上高

129億91百万円

不定期船輸送

不定期船輸送では、鉄鋼、セメントメーカー向け石灰石専用船は概ね安定した輸送量を確保できました。

定期船輸送

国内のロールオンロールオフ船定期航路においては、東日本大震災の影響により釧路航路・苫小牧航路・北九州航路の各航路で寄港地の変更を余儀なくされましたが、5月中には原航路へ復帰しました。しかしながら、主要荷主が被災し輸送量は停滞しました。

フェリー輸送

八戸ー苫小牧フェリー航路でも、東日本大震災の影響により青森港を代替寄港地とする臨時運航を行いました。7月に原航路に復帰以降、トラック輸送量は、台風などの影響から稼働減となったものの、北海道からの農産物の輸送が順調であったことから輸送量は前年並みを維持することができました。乗用車および旅客輸送では、旅客需要が低迷し前年に比べて輸送量は減少しました。

当部門の売上高は129億91百万円となり前年同期に比べて2.5%の増収となりました。また、営業利益は7億14百万円となり43.5%の減益となりました。

船舶紹介

"K"LINE KINKAI

近海不定期船

14隻

日本、東南アジア、極東アジアにおける南洋材、チップ、石炭などを輸送。石炭輸送においては、中国炭、ロシア炭輸送の有力船社として確固たる地位を築いています。

TROPICAL BREEZE／GLORIOUS FUTURE／SUNROAD YATSUKA 他

写真：CHIKUSA



近海定期船

16隻

鋼材、機械、一般雑貨、木材製品などを輸送する日本と東南アジアを結ぶ定期航路。企業の国際物流に対応した海上輸送の一翼を担っています。

MARINE DIAMOND／MARINE STAR／ORIENT KING 他

写真：GOLDEN SHOWER ACE



内航不定期船

10隻

鉄鋼副原料、セメント原料としての石灰石や電力用石炭をはじめ、多様な物資を全国各地に輸送しています。

JP TSUBAKI／須寿川丸／千津川丸 他

写真：美津川丸



内航定期船

9隻

生乳をはじめ、紙製品、農水産物、一般雑貨などを輸送する定期航路。スピーディで高品質な海上輸送を提供しています。北関東を中継し、北海道－九州間の一貫輸送も可能となりました。

神川丸／勇王丸／南王丸／ほっかいどう丸 他

写真：ほくれん丸



フェリー

4隻

八戸－苫小牧間を毎日4便運航。本州と北海道を最短ルートで結ぶ重要基幹航路として地域産業の発展に大きく貢献しています。

フェリーはちのへ／べが／べにりあ

写真：シルバークィーン



拠点紹介 八戸支店

産業と暮らしを支える海の大動脈。

八戸支店は1973年（昭和48年）4月にシルバーフェリー株式会社八戸本社として開設されました。現在は八戸ー苫小牧間を毎日4往復するフェリー業務を担っています。フェリーの予約受付や乗船時のご案内など、直接お客様と関わる業務が多いため、さまざまなニーズに最善の対応ができるよう、八戸支店のスタッフが日々取り組んでおります。また、本船が安全に出入港するための各種作業も八戸支店の業務となります。

八戸ー苫小牧航路は一般のお客様ばかりでなく、本州と札幌を中心とする道央圏を最短距離で結ぶことから、トラックドライバーにも幅広く利用されています。また、東北ー北海道間の工業生産品を中心とした物流にも大きく貢献しております。

今後も支店全員が一層のサービス向上に努め、「皆様に愛されるシルバーフェリー」を目指して邁進していきます。



【運航スケジュール】

	八戸	➡	苫小牧	苫小牧	➡	八戸
シルバーQueen	08:45		16:00	21:15		翌日04:45
べが	13:00		22:00	24:00		翌日07:30
べにりあ	17:30		翌日01:30	05:00		13:30
フェリーはちのへ	22:00		翌日07:00	09:15		18:15

2012年春
勇退予定の“フェリーはちのへ”

シルバーフェリー：
当社が旅客の皆様にご提供している
カーフェリーのサービス名称です。
「シルバー」は北海道の銀嶺をイメージ
してつけられました。

八戸支店

〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字海岸25番

●TEL(0178)28-2018 ●FAX(0178)28-1988





八戸支店の歩み

1971年 | 11月
(昭和46年)

八戸市に北日本カーフェリー株式会社を設立
その後シルバーフェリー株式会社に
社名変更

1992年 | 4月
(平成4年)

シルバーフェリー株式会社と
川崎近海汽船株式会社の合併
川崎近海汽船株式会社八戸支社を設置

2010年 | 7月
(平成22年)

八戸支社を八戸支店に改称

242km

八戸港

八戸駅

八戸自動車道

1979年 | 11月
(昭和54年)

東日本フェリー株式会社との
共同運航船“フェリーはちのへ”を
増便、1日2便体制を開始

2006年 | 12月
(平成18年)

八戸-苫小牧航路再編
“シルバークイーン”と“フェリーはちのへ”の2隻に併せ、
リベラ株式会社の同航路で運航中の“べにりあ”“べが”の
2隻を定期備船とし、1日4便体制を開始



東日本大震災について

東日本大震災において八戸フェリー埠頭は大きな被害を受けたため、7月10日まで青森-苫小牧間にて臨時運航をいたしました。その間も多くの皆様にご利用いただき、特に被災地への派遣である多くの自衛隊員や警察官、ボランティアの皆様にもご乗船いただきました。7月11日からは八戸港に復帰となり、被害にあった八戸支店も同じ場所で業務を再開しております。

東日本大震災遺児支援キャンペーン

東日本大震災遺児を支援するため、シルバーフェリーのステッカーを製作、販売し、その売上金全額をあしなが育英会に寄贈することにいたしました。

2012年3月31日まで、八戸港、苫小牧港の各ターミナルと八戸-苫小牧航路の各船内にて1枚100円で販売しています。ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



トピックス

TOPICS 1

新造船“シルバープリンセス”就航のご案内

現在就航中の“フェリーはちのへ”に替わり、“シルバープリンセス”がデビューします。

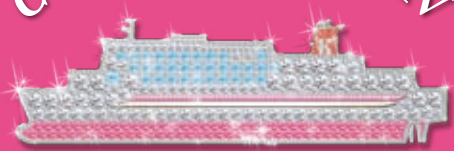
“シルバープリンセス”という船名は、当航路の愛称である「シルバーフェリー」と僚船“シルバークイーン”の姉妹船にふさわしい船名として名づけられました。「くつろぎ」と「プライバシー」を重視したシンプルで使いやすい設定を心がけ、多くの方のニーズに応えるために新しいタイプのお部屋もご用意しております。

2012年4月、いよいよお披露目となる新造船“シルバープリンセス”にどうぞご期待ください。

船舶概要

■ 総トン数	10,500t
■ 全 長	150m
■ 航海速力	20.5ノット
■ 車両積載能力	トラック 92台 (12m換算) 乗用車 30台
■ 旅客定員	500名
特等室	10名 (2名×5室)
1等室	140名 (2名×28室、4名×21室)
2等寝台	30名 (1名×30室)
2等室	240名 (座席指定)
ドライパー室	80名

COMING SOON



シルバープリンセス
Silver Princess

シルバープリンセス



COMING SOON

TOPICS 2

個人投資家向け会社説明会を開催（大阪・東京）

9月14日(水) TKP大阪淀屋橋カンファレンスセンター、9月21日(水) 日本証券アナリスト協会第1セミナールームにて日本証券アナリスト協会主催による個人投資家向け会社説明会を開催いたしました。

当日は石井社長による当社の概要や事業内容、業績、配当等についての説明が行われました。東京の開催日は台風が直撃したにもかかわらず多くの方にご出席いただき、両日のアンケートからも大変貴重なご意見を頂戴しております。当社は今後も積極的なIR活動を続けていく予定です。



連結財務諸表

"K"LINE KINKAI

■ 第2四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：千円）

資産の部	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
流動資産	10,913,246	12,041,933
固定資産	27,159,340	25,675,442
有形固定資産	25,851,674	24,605,496
無形固定資産	117,209	136,556
投資その他の資産	1,190,456	933,389
資産合計	38,072,587	37,717,375

負債の部	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
流動負債	7,939,106	7,726,588
固定負債	9,346,757	9,469,001
負債合計	17,285,863	17,195,589

純資産の部	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
株主資本	21,358,099	21,057,110
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	17,768,022	17,467,033
自己株式	△27,422	△27,422
その他の包括利益累計額	△571,375	△535,324
その他有価証券評価差額金	39,106	80,298
繰延ヘッジ損益	△4,164	△7,299
土地再評価差額金	△600,145	△600,145
為替換算調整勘定	△6,172	△8,177
純資産合計	20,786,723	20,521,785
負債純資産合計	38,072,587	37,717,375

■ 第2四半期連結損益計算書（要約）

（単位：千円）

	当第2四半期 累計期間 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日
売上高	21,141,614	19,798,228
売上原価	18,631,138	16,051,740
売上総利益	2,510,475	3,746,487
販売費及び一般管理費	1,799,160	1,781,797
営業利益	711,315	1,964,690
営業外収益	31,139	44,094
営業外費用	141,141	169,056
経常利益	601,314	1,839,728
特別利益	352,700	186,462
特別損失	234,999	—
税金等調整前四半期純利益	719,014	2,026,190
法人税等	137,054	823,811
法人税等調整額	134,172	△14,016
四半期純利益	447,787	1,216,395

■ 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：千円）

	当第2四半期 累計期間 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	474,206	3,571,937
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,938,714	△620,600
財務活動によるキャッシュ・フロー	△103,384	△1,733,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	△25,259	△60,109
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,593,151	1,158,200
現金及び現金同等物の期首残高	6,339,692	4,992,697
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,746,541	6,150,898

記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

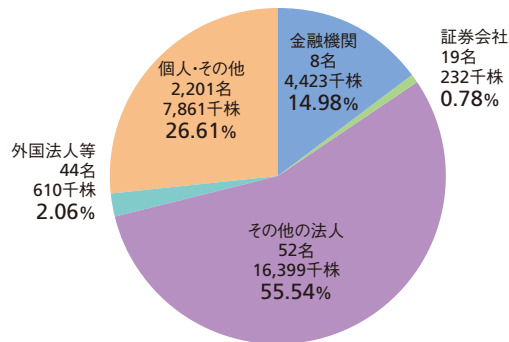
株式の状況 (2011年9月30日現在)

- 会社が発行する株式の総数 97,300,000 株
- 発行済株式の総数 29,525,000 株
- 株 主 数 2,324 名 (前期末比 127 名増)

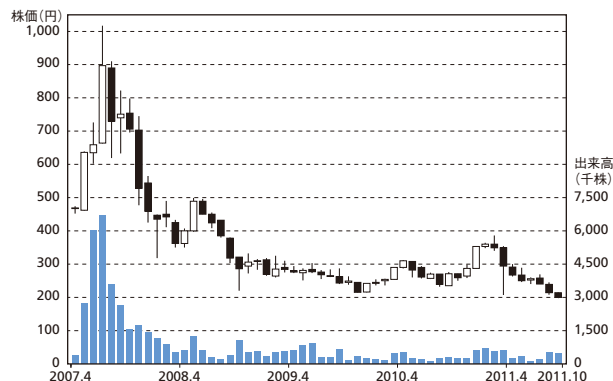
■ 大 株 主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.84%
東京海上日動火災保険株式会社	1,840	6.27%
株式会社損害保険ジャパン	1,080	3.68%
三井住友海上火災保険株式会社	855	2.91%
川崎近海汽船従業員持株会	463	1.58%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	370	1.26%
北海運輸株式会社	350	1.19%
株式会社栗林商会	304	1.04%
株式会社ダイトコーポレーション	278	0.95%
株式会社リンコーコーポレーション	150	0.51%
日東物流株式会社	150	0.51%

■ 株式の所有者別状況



■ 株価及び株式売買高の推移



表紙の船

The Ship on the Cover

“ほっかいどう丸”

本船は、1999年（平成11年）9月、三菱重工業株式会社下関造船所に建造されました。

苫小牧―常陸那珂間（航海距離754km）を約20時間で就航し、北海道と関東を結ぶ大動脈として、農水産品、紙製品、建材のほか、工業製品や一般雑貨など、生活に必要な貨物を輸送し、人々の暮らしを支えています。



船舶概要

- 総トン数 12,526t
- 航海速度 23.5ノット
- 全 長 199m
- 車両積載能力 トラック161台(12m換算)、2台(9m換算)
電源220V 80個 電源440V 5個

社名	川崎近海汽船株式会社	役員	代表取締役会長	森原 明
	KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.		代表取締役社長	石井 繁礼
			取締役副社長	田村 周三
設立	1966年（昭和41年）5月1日		常務取締役	木村 孝史
本社	東京都千代田区霞が関一丁目4番2号		常務取締役	上杉 芳人
資本金	23億6,865万円		常務取締役	赤沼 宏
代表者	代表取締役社長 石井 繁礼		取締役	山田 敏雄
従業員数	397名		取締役	高田 雅彦
主な事業内容	海上運送事業		取締役	高木 久裕
	海運仲立業		取締役	友井 彰彦
	港湾運送事業および倉庫業		取締役	杉本 利文
	貨物運送取扱事業		取締役	寅谷 剛
	海運代理店業		監査役	新 勝好
			監査役	島村 康雄
			監査役（非常勤）	堤 則夫
			監査役（非常勤）	生和 勉
			監査役（非常勤）	鈴木 修一

運航船舶

※他社との共有船

	船名	船種	総トン数	重量トン数(k/t)	主要馬力	航海速力	建造年月	就航状況
社船・共有船	ほくれん丸	RORO	13,950	6,597	D-24,256	23.5	2006年6月	内航定期船
	第二ほくれん丸	RORO	13,950	6,597	D-24,256	23.5	2006年7月	内航定期船
	神川丸	RORO	13,018	6,387	D-21,618	22.0	2002年9月	内航定期船
	ほっかいどう丸	RORO	12,526	5,937	D-32,400×2	20.0	1999年9月	内航定期船
	勇王丸*	RORO	9,348	5,335	D-17,185	20.7	2001年6月	内航定期船
	げんかい	RORO	7,097	5,445	D-26,400	22.0	1997年6月	内航定期船
	シルバークイーン	フェリー	7,005	3,455	D-12,000×2	20.7	1998年3月	フェリー
	フェリーはちのへ	フェリー	5,603	3,352	D - 5,740×2	18.2	1989年7月	フェリー
	美津川丸	石灰石専用	3,497	5,800	D - 3,350	12.5	2007年10月	内航不定期船
	JP TSUBAKI*	石炭専用	7,287	6,600	D - 4,420	12.0	2008年11月	内航不定期船
	JP COSMOS*	石炭専用	7,287	6,600	D - 4,420	12.0	2008年2月	内航不定期船
	須寿川丸	ブッシャーバージ	94	3,918	D - 2,400	9.8	1992年7月	内航不定期船
社船・共有船計		12隻	100,662	66,023				
定期備船		41隻	332,083	458,096				
運航船舶合計		53隻	432,745	524,119				

川崎近海汽船株式會社

東京都千代田区霞が関一丁目4番2号（〒100-0013）
TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

当社IRサイトをご活用ください。

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。

<http://www.kawakin.co.jp/ir/index.html>

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■同上総会権利行使株主確定日	3月31日
■配当金受領株主確定日	3月31日
■中間（第2四半期末）配当受領株主確定日	9月30日
■基準日	上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
■株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
■郵送物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル） 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
■公告方法	電子公告により行います。公告掲載URL（ http://www.kawakin.co.jp/ ） ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
■住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
■未払配当金の支払について	株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
■配当金計算書について	配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は大切に保管願います。 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。